

一主婦からの新発田市政通

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

20号

平成 26 年 4 月 21 日 第 20 号

1 公共施設のあり方に関するアンケート調査

企画政策課から、公共施設のあり方に関するアンケート調査が4月初旬に各種団体に封書で送付されました。これは何を意味するのでしょうか。私は先の3月議会傍聴の際に、公共施設解体の為に国が補助金を出すという事を聞いていました。このアンケート調査の意図は、既存公共施設を本格的に解体するための調査だと直感的に理解しました。アンケート内容は私が見た限り解体の方向へ誘導するようなものだと感じました。

新庁舎や駅前複合施設を建設する一方で、多くの公共施設の維持管理費用が財政の負担となっています。新庁舎は各支所を残したままであり総合庁舎ではありません。議会の時期になると各支所からの車と人が増え迷惑しているとの現庁舎近隣住民の声も聞いています。建物に対する維持管理費用だけでなく、職員が車で移動する為のガソリン代や時間も馬鹿になりません。

駅前複合施設にはキッチンスタジオが新たに設置される予定です。キッチンスタジオは中心市街地の公共施設は勿論のこと、各地域にも多くあります。多目的ホールも各施設に多くあります。また、いきいき館の子供センターには綺麗な床が敷かれた中、二組の親子のみかが遊んでいました。綺麗な場所ですねと言う私に対し、職員は、この建物は古いからと述べました。

公共施設ビル解体によって周辺一般住宅の地盤は少なからず影響を受けます。解体前に周辺の家屋調査が実施されますが、その後、苦情を訴えない限り解体後の家屋調査は実施されず、実際の被害はうやむやになります。解体時のアスベストの拡散は生命の危険があります。また廃材の一部は地下に埋められてしまう可能性があります。その市有地を市民が購入する場合は注意が必要です。公共施設解体後に市有地を購入した我家の土地には、地盤に影響する産業廃棄物のニッケル残土がありました。畑にと購入したのですが、地下約1m位まで廃材があり水はけが悪い為、毎日穴掘りをして取り除いています。物理的な事だけでなく、精神的・身体的にも影響があります。掘削時のゆれは身体に変調をきたします。新庁舎建設予定地周辺の方が、NTT 駐車場跡地掘削時に体調を崩されました。

既存施設を如何に機能させるかに力を注がず、古い、耐震性が低い、利便性が悪いと行って新しい箱物を造れば維持管理費用が増大するのは当たり前です。少ない予算で建物を安全なものに再生させるだけの技術が日本にはあると思います。今ある物を十分使いきる事だと思います。解体の為に補助金が出るとしても全額ではありません。税金を節約し、物ではなく人の為に使って欲しいと思います。市民としても新しい物を欲しがるとは抑制したいものです。

二階堂市政が続けば、足りない新庁舎隣接駐車場確保の為には邪魔になると思われる地域交流センターや、裁判中の現図書館が解体されかねないと危惧しています。

2 緊急告知 FM ラジオについて

皆様は、発田市が資金をだし FM しばた株式会社が設立された事をご存知ですか。FM しばた株式会社設立時には、議会でも是非について相当の議論があったときいています。先の3月議会における

予算審議の傍聴で知る限り、新発田市の税金に依存したこの会社が、将来的に自立できるとは思いませんでした。今年度は、この会社に予算約5千万円が計上されました。

会社責任者が今年度は緊急告知ラジオ販売に力を入れ収益を上げると述べていました。このラジオは本体価格 8500 円、簡易アンテナ 210 円（税込）です。ラジオとしての機能に加え、電源をいれておくと緊急時に自動的に緊急通報が入る仕組みになっています。このラジオは電池によって 24 時間使用可能ですが、その後は電池の充電が必要です。

一方、市役所一階には、災害時対応のラジオが展示されていました。その中の一つに、手回し充電ラジオライトという機種がありました。電池がなくても手回しによって FM・AM ラジオ機能は勿論、携帯電話、USB の充電が可能であり、簡易型 LED ライトとしても使用できます。コメリにおいて税込価格 3065 円（電池別売）で販売されていました。宮城県在住の友人が震災時に手回しラジオが役立つとして購入を勧めてくれました。

皆様は緊急時対応として、どちらのラジオを購入されますか。

3 駅前複合施設管理運営面のワークショップ

4月15日付広報によって、駅前複合施設管理運営面のワークショップ参加者が公募されました。管理運営方針策定の体制についての職員用の資料によると、行政の体制は、副市長、教育長、政策調整監、各課の課長で構成され、企画政策課が事務局となり、殆どの管理運営方針を行政と専門委員会が決めるという構図になっていました。また、多くのことは行政が決めるのでワークショップで話し合う内容は限定されると記されていました。ワークショップは、市民からの意見を聞いたという行政の言い訳に利用されるものであり、市民参画の場になっていないと感じています。

基本設計ワークショップメンバーに送付された参加案内によると、管理運営面についての公募でありながら、それについての意見交換は1回きりでした。私は駐車場の問題、本館である現図書館のあり方や連携について、新図書館の開館時間について、図書館を直営にする事の利点について等、各々時間をかけて行政と市民が共に考え学ぶ内容が多くあると考えます。しかし、公募意見で十分と思われる駅前複合施設オープン前後のイベントについてがテーマとして挙げられる等、市民は重要な問題から除外されていると感じます。

このような事でよいまちづくりが出来るのでしょうか。市民の皆様、これを是とする事なく、参加し共に考え学びましょう。